

韓国薬学研修報告 ～東国大学病院薬剤部について～

神谷 祥世 薬学部4年 11A046

私たちは2014年8月21～24日に韓国の医療現場について学ぶため研修に行った。今回見学させていただいた東国大学病院の薬剤部について報告する。

2005年に開設され、現在は650床あり14人の薬剤師が業務を行っている。薬剤師の主な業務は院内処方調剤と抗がん剤の調剤である。他にもTPNの管理や医師、看護師と共に服薬指導や担当患者の体調管理を行っている。また、薬の情報に関して副作用のスクリーニングも行う。

2014年から東国大学の薬学生の実習も行っている。8週間の教育実習を行ったのちアドバントとしてもう12週間実習を行うことで薬剤師となったときの即戦力を身につける。



東国大学附属病院

薬剤部の仕事について見学した。PCに医師からの処方情報が送られるとその情報通りに自動処方分包機により自動調剤が行われる。分包が終わると薬剤師は処方通りに分包されているか確認し患者に処方薬を渡す。自動分包により手作業よりも早く、薬の汚染を防ぐ調剤が可能となる。

安定性が低い薬剤や散剤の調剤は薬剤師の手で行われる。部屋の中央には円形の薬剤整理棚があり、よく処方される薬剤をまとめて置いておくことで移動時間を短縮し、調剤時間を短縮する工夫がされていた。



病院薬剤部

注射剤の常温・冷蔵保管も薬剤師の重要な仕事である。PCに送られた薬の処方情報をプリントアウトし内容の確認後必要薬剤を揃え無菌室で抗がん剤調剤を行う。無菌室にはUVで無菌状態に維持されたクリーンベンチが設置されており、被ばく防止用に白衣と二重の手袋を着用しアルコール消毒を行った後に調剤を行う。調剤監査は2回薬剤師が行い、看護師も1回行う。韓国の注射剤の処方箋には調剤した時の総量から薬剤の投与量がどれだけかわかるように明記されているため、調剤量の計算は行わない。

韓国の病院薬剤師の役割は日本と重なる点が多いが、日本と異なる点もある。今回訪問した東国大学付属病院ではTDMを薬剤師ではなく臨床薬理学の医師が行う点である。韓国の病院では薬剤師でなく臨床薬理学の医師が行う病院が少なくないようである。



無菌調剤室

感想

日本の医療体制について授業で学ぶことは多かったが今回は日本国外の医療について直に見聞きし体験できたことは私にとってとても貴重な経験となった。日本と同じところはもちろんのこと、日本では取り入れている医療体制についても参考にし、今後私たちが現場で働くときの患者のための医療の提供につなげたいと思う。このような機会を企画してくださった愛知学院大学の事務職員、教職員の方々と、東国大学、大学病院の方々に感謝いたします。